



院長のご近所探訪

～回向院(両国)編～

「振袖火事」の名で知られる明暦の大火の契機に開かれ、その時10万人以上ともいわれる無縁仏を供養したお寺。その他、江戸勸進相撲の発祥の地でもあり、相撲の聖地として、今も親しまれています。



力塚(歴代相撲年寄の慰霊碑)



回向院正門



鼠小僧次郎吉の墓所

障害者の就労・就学支援

日本が輸入したアメリカのリハビリテーションは、職業リハビリテーションから始まりました。もちろん、戦争を契機とし、傷痍軍人に対する社会復帰対策として始まったことですが、第二次世界大戦の最中の1920年に、一般市民の障害者に対する職業リハビリテーション法として連邦議会で成立しています。かたや日本では、リハビリテーションが始まったのは前回の東京オリンピックの頃(1964年)で、国立リハビリテーションセンターに職業リハセンターが開所したのは1979年頃と聞きます。当時は就労支援、就学支援とは言わず、職業リハビリテーション、教育的リハビリテーションといい、さらに医学的リハ、社会学的リハを加えて、総合リハビリテーションと言っていました。しかし、障害者の雇用対策自体は既に1960年、「身体障害者雇用促進法」が、その後1987年には「障害者の雇用の促進等に関する法律」として整備されていたようです。そして記憶に新しいのは、事業者の雇用義務が、従業員200人を越える場合に1人であったのが、2013年からは50人に1人(2%)になり、今後比率が増加していくようになった事です。今回は就労にのみ言及させていただきます。

さて、観念的には就労が「QOLの実現」なのかどうか、あるいは障害によらない貧困やニートなどとの兼ね合いでの賃金補填の是非など、話はいろいろあると思われそうですが、リハ病院退院後の中途障害者の就労の現実はどうでしょう。昨今、就労移行、A型、B型などの言葉を病院でも頻りに聞

くようになっていきます。雇用に至る前、つまり制度的には障害者総合支援法で行われている、就労移行支援、就労継続支援のA型、B型事業の事です。この中でA型のみ、雇用契約が発生し、賃金が発生します。B型は雇用契約はなく、工賃が支払われます。A型の平均賃金は69,000円あまりで障害年金等と組み合わせると何とか自活できるレベルですが、一方B型の平均工賃は約14,000円(私の外来の患者はもっと少ないし、昼食代を払ったりするとほとんど残らなかつたりする)、これは雇用とは言わない建前ですから、致し方ないのかもしれませんが。問題は、就労移行支援、あるいは継続支援となった方が、どの程度一般就労に到達するのかです。もちろん、障害を持ってのち、通常の事業所に復帰することが困難(あるいは可能でも何らかの援助が必要)とされるから福祉サービスを受給するようになるわけですが、全体で年間利用者の4.6%、B型からは1.6%(平成25年度)という比率です。厚労省の調査によれば、1年間に一人も一般企業への就労者が出ていない事業所は、A型7割、B型8割となっていると…。リハ病院としてその現実を鑑みれば、元の職場への復帰を果たすために、周囲を巻き込んで検討していくのが理想的であり、一般就労への近道かと思われます。ただ、雇用者を巻き込んで障害者就労を実現することは、とても困難な作業であり、特に、営利民間企業よりも、税金で給料が支払われる公的団体の方が難しい印象です。障害者それぞれにとって必要とされるきめ細かな対応を、回復期リハの段階から行うのが、私たちの使命でしょう。

副院長 柳原幸治

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。



就労支援のかかわり — 当院の特徴 —

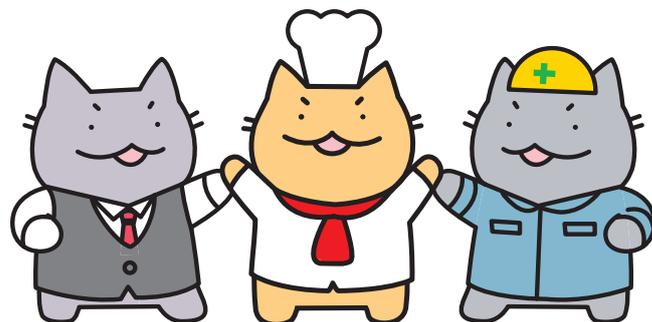
作業療法科 科長 倉持 昇

回復期リハビリテーション病棟に入院される当院の患者さんは、20～50代の年齢層が例年30%程度です。男女を問わず、働き盛りである年齢と言えます。そのため、復職がリハビリテーションの目標の一つになります。平成28年度に行なった就労支援の研究では、4月1日から11月20日までに入院し、発症前に何らかの仕事をしていた74名の脳血管障害の患者さんのうち33名(45%)の方が復職したという結果でした。個々の患者さんの障害の程度等にもよりますが、退院時復職が難しくても、外来訓練の継続や、就労支援を行なう関連施設と連携を図ることにより復職へ繋がる場合もあります。リハビリスタッフは患者さんのニーズに応えるために有益な情報提供や、復職に向けた専門的な関わりが求められています。

当院では、平成29年度より医師・理学療法士・作業療法士・言語療法士・臨床心理士・医療ソーシャルワーカー等により構成された就労支援チームを立ち上げました。ここでは、対象者の就労に関する評価、支援方法、職務内容、職場のスタッフへの関わり等をデータベースに保存し分析・検証しております。疾患構成は、65歳以下の脳血管障害、脳外傷者としており、前職も事務職、営業職、配送関係の運転手、タクシードライバー、自営業、など様々です。リハビリテーションにより、就労に必要なレベルまで能力の向上を目指しています。障害は、運動麻痺など身体機能障害、記憶・注意・遂行機能など認知機能の低下を伴う高次脳機能障害、意欲、感情のコントロールの障害による社会適応障害など様々です。それらの対象者に対して、どのように復職に繋げるかは、ケースにより異なります。

当院の特徴として、第1は入院から外来に移行し継続的に就労訓練を行なう場合があります。模擬的に職務場面を設定し課題の遂行を行なっております。最近では、職場の協力を得ながら傷病手当受給期間中にリハビリ出勤をし、実務を行ない、職場で起きた課題に対して外来で指導する試みを行ない、復職に繋がられた事例もありました。第2は、高次脳機能障害者に対して、障害の自覚、対人関係改善を図るための訓練等を行なっております。家族も一緒に参加し、障害の理解を深め、他者との関わりを通してコミュニケーション能力を高め、復職・再就職に繋げています。第3に、仕事上自動車運転が必要な方には、適正評価を行なっています。配送関係の仕事やタクシー運転手などの職種の場合は、運転能力が直接復職に影響するため、評価結果を通して仕事が可能どうかを対象者と一緒に検討します。さらに、これらの就労支援の結果を様々なリハビリテーション学会に報告しました。

近年では、法定雇用率が改正され、積極的に障害者を受け入れる企業も増えております。これからも企業や就労に関連する機関と十分連携を図りながら、一人でも多くの対象者の就労が可能になるよう、セラピストの育成、知識・技術の向上を図り、日々研鑽に務めてまいります。





「高次脳機能障害のある子どもとその家族向けリーフレット」の作成

医療福祉連携室 相談科 主査 西原 大助

当院の療養支援室（2F医療福祉連携室内）は、退院支援看護師と相談科のソーシャルワーカーで構成され、退院支援部門として入院早期から退院後の生活を見据えた支援を開始しております（H30.2入退院支援加算1取得）。入院中は、患者さん、ご家族支援のみならず、院内外のコーディネート役となりケアマネジャー、訪問看護師、子どもの場合は教育機関等の地域を支える方々と、退院後の支援体制づくりを主体として連携強化を図っています。今回は、18歳未満の患児とご家族を対象に作成したリーフレット、「小・中・高校生のライフステージ別支援」についてご紹介させていただきます。

近年、当院では交通事故や脳血管疾患による18歳未満の患者さんの入院、外来が微増している状況です。（高次脳機能障害のある子どもは全国で7万人から8万人という推定報告があります。）そこで、当院に入院、外来通院中の18歳未満の患児のご家族を対象に、発病直後から退院後の日常生活において感じた不安や直面した課題等を問うアンケートを実施しました。結果、18歳未満の患者さん、ご家族が入院から退院後の生活場面で直面する課題で成人や高齢者と最も異なるのが、「教育」でした。この「教育」の課題に対して当院では、後掲の『つばさ訪問学級』を利用させて頂き、患児の入院中の教育の機会を確保し、退院後のスムーズな復学に向けた支援を行っています。また、退院後の在宅生活では、進級、進学ごとの高次脳機能障害が起因する学校生活場面での課題が多くを占め、当院の外来診療を年単位で継続しているケースも散見されました。

このように、18歳未満の患児とご家族への入退院支援は、「在籍校と特別支援学級との訪問学級の手続き」、「後遺症を配慮した復学調整」などの就学支援者との連携、または、「装具作成、福祉用具導入、住宅改修、重度訪問介護等の福祉サービス利用申請支援」など様々です。さらに、相談する支援機関の対応も一定ではないため、それぞれの地域や相談内容ごとに丁寧な確認が必要なのが特徴です。その結果、特にご家族においては、医療機関、学校、区役所、児童相談所、子ども家庭支援センター、特別支援学校など、相談内容に応じて複数の窓口で手続きを行わなければならない、負担がとりわけ高い状況が調査から明らかになりました。よって、情報の整理と提示により入院早期から安心して制度や社会資源を確認できるツールの検討が必要という考えに至り、下図のリーフレットを作成いたしました。

今後も、東京都のリハビリテーションを牽引する専門病院の療養支援室として、小児のリハビリテーションのソーシャルな課題に注目し、ニーズに応じた実践が必要であると考えます。



ご近所ネットワーク

東京都立墨東特別支援学校 病弱教育部門 つばさ病院訪問学級

入院中でも学校教育が受けられる～退院後の元の学校での生活を願って～

副校長 小滝 義浩

本校は、東京都の東部地域の肢体不自由教育と病弱教育を担っています。病弱教育部門は主として入院中の小学生から高校生に授業を行います。入院に伴い、本人や御家族の方が心配されることの一つに学校教育があります。本校が大切にしていることとして、入院中でも授業を行うことで、児童・生徒が退院後に少しでも円滑に元の学校に戻れて過ごせるようにしています。よって、元の学校と定期的に連絡を取りながら授業を進めています。

ただ、入院されている児童・生徒数が少ないとどうしても個別指導が中心となりがちです。他の児童・生徒と一緒に学びあうということは交友関係を広げる、互いに意見を出し合い考える、協力して何かを作り上げるということがどうしても不足します。そのため、本校では「分身ロボットOriHime」(左の写真では机の上にある白い人形)を活用し、元の学校の様子を内蔵のカメラやマイク、スピーカー等を通じて、他の児童・生徒たちと一緒に授業を受け、社会見学等の校外行事でも直接参加ができなくても、自分もその場にいる状態を疑似的に作り出すことができます(右下の写真)。

そして、退院が近づくと、児童・生徒が元の学校での生活に不安になることとして、授業についていけるか、友だちと仲良く過ごせるかといったことがあります。そのようなことも考え、この「分身ロボットOriHime」を活用して、入院中の生徒の代わりに元の学校に登校して、病院から元の学校の授業を受け、一緒に休み時間を過ごします。

この写真に写っている方も、元の学校の先生方や友だち、そして当センターの職員の皆様の御協力をいただけたことで、元の学校に戻っての生活に見通しと希望を見いだせ、退院・新たな(元の)生活が始まりました。

これからも児童・生徒一人一人の実態等をもとに、病院も含めて関係者の皆様とともにより良い授業を目指してまいります。



看護部の取組み Vol.3 ～あれ&これ～ご紹介



4S病棟 = 4つのS【Safety・Service・Smile・Special】な病棟！

【Safety】 は多職種カンファレンスや看護師間の情報交換を行い、患者さんの状態や行動パターンから安全をアセスメントし「転ばぬ先の杖」になるよう看護をしています。

【Service】 はオムツを使用している患者さんが1日でも早く自立した排泄ができるよう定期的にカンファレンスを行っています。カンファレンスにはリハビリスタッフも参加しています。また、家屋評価に看護師も同行し、看護の視点で得た情報を患者さん、ご家族が安心して在宅生活を送るよう退院支援に生かしています。

【Smile】 は拘束しない看護の取組みを強化し、患者さん、ご家族が笑顔で過ごせるようにしています。定期的

に開催している倫理カンファレンスには、セラピストも自主的に参加してくれて、多角的な視点で意見交換をしています。また、ご家族に患者さんの様子をタイムリーにお伝えするようにしています。

【Special】 は今年の1月から回復期リハビリテーション病棟入院料1を院内で初めて取得しました。4月に診療報酬改訂があり、回復期リハビリテーション病棟入院料は6つの入院料に細分化されました。この新しい診療報酬では入院料2となりましたが、各部門と協働し回復期リハビリテーション病棟入院料1の取得を目指します。

4S病棟 看護師長 金 指るみ子

6階病棟 新入職員 welcome!!

今年度は新人看護師2名、既卒看護師1名が新たに仲間入りしました。新入職員を迎えるにあたり先輩職員がウェルカムボードを作成しました。

ウェルカムボードには顔写真、出身地、好きな食べ物、嫌いな食べ物、そして新しく来た方へのメッセージが書いてあります。なぜ、食べ物のことばかり聞いているかは不明ですが…。

新入職員が1日も早く病棟に慣れるよう、まず先輩職員との会話のきっかけになればという思いから作成しました。

新入職員は「温かい病棟」という印象を持ち、こちらのねらい通り、出身地をきっかけに先輩と話をすることができました。ウェルカムボードは新入職員だけでなく職員同士の新たな発見もあり、更なるチームワーク作りに一役買っています。

「医の原点に立った心温まる医療の提供」のためにチーム力を発揮したいと思います。



6階病棟 看護師長 中島 克子



医療福祉連携室だより



平成30年度 第1回 地域リハビリテーションセミナーの開催について テーマ：「在宅で活用できる呼吸リハビリテーションの手技 ～呼吸介助・呼吸訓練・排痰法～(実習付)」

日時：平成30年4月16日(月) 18:30～20:30 会場：すみだ産業会館 会議室1,2

今年度に入り、第1回目の地域リハビリテーションセミナーは、複十字病院の千住秀明先生にご登壇いただき、在宅に必要な呼吸リハビリテーションの基本手技をテーマに、実習付形式で開催いたしました。

実習の中で、息切れの軽減や、排痰だけでなく、リラクゼーションがより快適な呼吸を促すという考えの下、リラクゼーションまでも意識した、千住先生の呼吸介助手技を、実際に体験した参加者からは「すごい、全然違う!」と驚きの声が聞こえてきました。

千住先生の手技を身に着けようと、参加者の方々とペアを組み、お互いに施術し、真剣にアドバイスを送り合う、意欲溢れる活発な実習となりました。

アンケートでは、「自身の病院でも、呼吸で苦しんでいる人が多いので、明日の臨床から、さっそく使える手技を教えてください、大変参考になりました。(OT)」、「本で見たり、話に聞いたりするだけでは、今ひとつ自信が持てませんでした、実際の手技をみて、ペアの人と意見を言いあって、少し感覚がわ

かりました。(Nrs)」といった実習形式に対する、多くの感想をいただきました。

今後も、区東部地域リハビリテーション支援センターとして、参加者の皆様のご意見を反映した有意義なセミナーを開催し、地域の介護・福祉・保健・医療に従事される皆様へ、地域リハビリテーションの普及・啓発に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



研修会の様子

区東部地域リハビリテーション支援センター 研修会 開催予定

① 平成30年度 介護技術研修会「歩行・移動の介助方法及び福祉用具」

対象者 墨田区・江東区・江戸川区に在勤で施設介護や居宅介護に携わっている方

日時 平成30年7月12日(木) 13:30～16:30 会場 当院3階 大会議室 定員 30名 費用 無料

※参加には事前のお申し込みが必要です。定員を超えてしまい、ご受講できない場合のみ、その旨ご連絡いたします。
※当日は実地研修があるため、動きやすい服装でお越し下さい。

平成30年度 地域リハビリテーションセミナー【前期】開催予定

対象者 墨田区・江東区・江戸川区のリハビリ専門職・看護師・地域包括スタッフ等

	日 程	時 間	テーマ(仮)	会場 (すみだ産業会館)	費用	定員
第5回	平成30年 7月20日(金)	18:45 ～ 20:30	地域診断で学ぶ墨田区の強み	会議室4	無料	65名
第6回	平成30年 8月29日(水)		地域包括ケアシステム～すまいとすまい方～	会議室4		65名
第7回	平成30年 9月21日(金)		ファシリテーション・発言の仕方・ 発表時のまとめ方 等	会議室1,2		85名

※参加には事前のお申し込みが必要です。開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、区東部地域リハビリテーション支援センター事務局(TEL:03-3616-8600 内線376)までご連絡下さい。

おもしろ体験記



男でも育児休業をとるぞ! 編
子育て奮闘記 Vol.1

平成28年に日本の男性で育児休業を所得した人は3.42%だそうです。所得者であっても5日未満の休業期間が57%を占めるとのこと。つまり、日本の男性で育児休業を長期間所得する人は珍しい存在ということになります。そんな世知がらい社会背景ではありますが、この度、私が東京都リハビリテーション病院において初の男性育児休業所得者となりましたので、この体験を本稿にてお伝えします。

私は家庭の事情で第2子の育児に参加すべく、6ヶ月間の育児休業を取得しました。妻の妊娠が判明して、自分が育児休業を取らないといけないだろうと考えはじめたのは、育児休業を申請する半年くらい前だったでしょうか。まず、頭をよぎったのは上司の顔でした。理学療法科には強面の科長がおりま

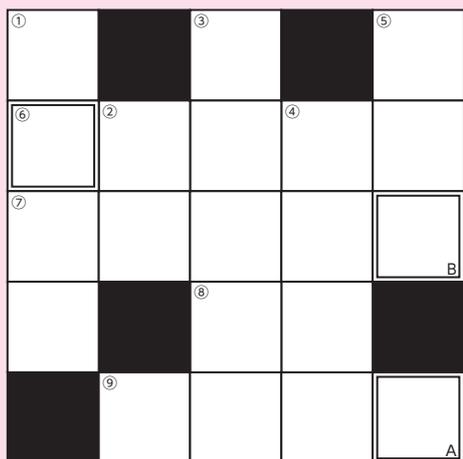
して、男性が育児休業を取りたいと希望して果たして理解が得られるのか、想像もつきませんでした。その他にも自分が関わっていた仕事を手放すことに抵抗がありましたし、育児休業によって周りからの評価が変わったりしたら嫌だなという気持ちもありました。世の男性にとって育児休業のハードルがいかに高いのか身をもって感じる日々でした。それでも、我が家では私が育児休業を取る他に選択肢がなかったので、猛獣の檻に飛び込むような気持ちで科長に相談することにしたのです。そして、私の心配はどこ吹く風だったのか、科長はあっさりふたつ返事で快諾してくれたのでした（しかも、笑顔）。それから、配属先の病棟やその他の業務で関わりのある皆様にご協力していただきながら育児休業に突入していったというわけです。

今振り返ってみると、上司が背中を押してくれた、理解を示してくれたという安心感があったからこそ、男でも育児休業をとるぞ!と覚悟を決めて臨むことが出来たのだと思っています。家族一同、本当に感謝しています。(つづく)

理学療法科 廣澤全紀

ほっとリハ クロスワード Vol.11

ヒントをもとにマス目を埋め、二重マスの文字をつなげてください



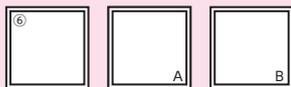
タテのかぎ

- この模様は黒地に白の短毛でできています
- 謎の銀色の虫は漢字で「紙魚」と書きます
- アレルギー性鼻炎等の治療に処方されます
- 値打ちのない雑多な品物や道具類
- 昔の日本では気晴らしのことをこう呼びました

ヨコのかぎ

- 弾薬を自動的に装填し、連続発射する銃
- 海の神にシーズン中の安全を祈願する行事がある
- ウシ科の哺乳類。チベットあたりが原産
- バーベキューで使います

答え:



【応募方法】 はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤ご意見、ご感想をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。正解者の中から抽選で10名様にQUOカードをプレゼントいたします。

【締 切】 平成30年8月2日(木) 当日消印有効
※正解は次号に掲載いたします

【応募先】 〒131-0034 東京都墨田区堤通2丁目14番1号
東京都リハビリテーション病院 ほっとリハ編集部係宛

2回目の「看護の日イベント」を開催しました！！

イベント当日は始業時間と共に準備をしましたが、職員は昨年の経験からテキパキと動いていました。イベント開始時間は9時30分を予定していましたが、ご近所の方が数名「このために来たのよ。」と早々にお越しいただいたので、予定より早く開始しました。

まず測定コーナーで身長、体重、体脂肪、握力、血圧、血糖を測りました。

次に体験コーナーで衛生的手洗いやアロマハンドマッサージをしました。アロマハンドマッサージは昨年も大変好評でした。今年はアロママッサージセラピストが一人でしたので、順番待ちの行列ができてしまい、ご迷惑をお掛けしました。次回は複数で対応できるよう準備したいと思います。

相談コーナーでは薬、栄養、認知症、リハビリ、脳卒中、介護保険等についてそれぞれの専門の職員が対応しました。

今回は木谷ウォーキング研究所の皆さまが最近、

健康づくりで注目されている「ポールdeウォーキング」の体験を行っていただきました。

両手にポールを持って歩くと、体が安定して姿勢が良くなりスイスイ歩帰庫とができます。20名ほどの方が体験され「やってみたかったから嬉しい。」「ただ歩くより効果がありそう。」など感想がありました。

リハビリの訓練士さんと参加していただいた方、ご近所から参加してくださった方、面会に来て覗いてくださった方等々、昨年より多くの方に参加していただきました。

「改めて自分のことを知ることが出来た」「来年もやってほしい」「楽しいイベントだった」等、嬉しいメッセージをたくさんいただきました。

しかし、「皆さん、保健所の方？」との質問を受けました。当院の看護をもっとアピールしなくては…。次回のイベントもどうぞ期待！！

外来看護師長 田山理恵



都リハ病院には
歩くのを補助する
「補装具」が

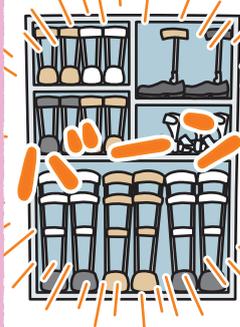
ほもーぐ?

いっぱいあるって
本当かニヤ?



リハにゃん

装具のキホン



短下肢装具・長下肢装具・
オルトトップ等…
指導に必要な装具が
棚一杯にあります!



補装具って
そんなにいっぱい
いるのかニヤ?



ちょっとあれば
良いんじゃない?

そもそも補装具は
脳卒中等で半身が
麻痺した場合、
麻痺側に入らなく
なるので、それを支え
歩行を補助するための
道具なんだ。



左右や大きさ、
角度など患者さんの回復に
合わせた器具を使用しないと
ダメなんだよ。

ズバリ
下手な鉄砲
数打ちや当たる
作戦だニヤ!?



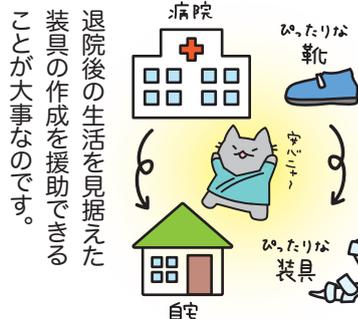
ニヤるほど、
補装具って奥が深〜い!

都リハには、安心できる
環境と設備、経験があるって
いうことなんだニヤ
今日もまた、
都リハ病院のこと
少し詳しくなったニヤ

たいへん
よくわかり
ました

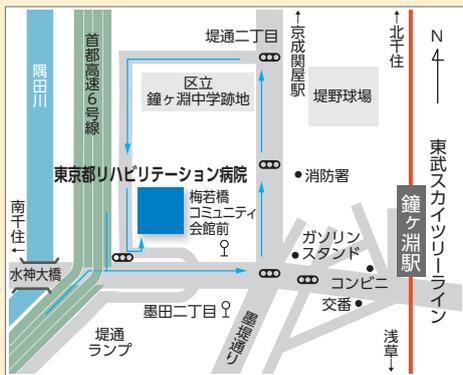


要するに
入院中にも適切な装具を
使用できる環境と



ちんぷん
かんぷんニヤ…

交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線

南千住	都営バス	10分	梅ヶ橋(メトロ)	徒歩	2分
錦糸町	都営バス	25分	墨田二丁目	徒歩	4分
浅草	東武スカイツリーライン	10分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
亀戸	東武亀戸線	20分	京成関屋駅	徒歩	15分
北千住	東武スカイツリーライン	5分			
京成上野駅	京成本線	12分			

東京都リハビリテーション病院



平成30年7月1日(日)発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8699
<http://www.tokyo-reha.jp>



見やすく読みまちがえ
にくいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

編集
後記

両国の回向院本堂の凜とした空気の中お目にかかったご本尊は、全てを見通すかのごとく、やさしく微笑んでおいででした。副住職の本多様より伺った神秘的なお話、「東日本大震災のとき、ご本尊の周りの装飾物が全て倒れたそうです。しかし、ご本尊を避けるように倒れていた」とのこと。鼠小僧や歌川広重、回向院(勸進)相撲に解体新書と江戸の歴史の宝箱のような伝承を拝聴しました。取材協力に感謝いたします。